



## IV 住生活

初等教育では「家のなかの自分の身の回り」という小さな単位から考え、中等教育に進むに連れて、住宅・住生活・街や都市といった大きな単位に広げていくことにより、その現状と課題を理解し、解決策について考えるというのが、日本の家庭科教育の住居分野における教育の特徴である。

この冊子では、まず初等教育では、身の回りの空間を快適性という小さな単位からとらえ、それをどのように良くしていくかを住まい手の立場で学習する。初等教育での快適性とは、衛生・環境面での人間の感覚的な快適さを指している。

中等・高等教育に進むにつれ、住宅のみならず周囲の住環境にまで発展させ、広く考えるようにしていく。この周囲の住環境とは、住宅の屋外空間から近隣、街、都市というふうにくつがの範囲が含まれる。したがって住宅の内部や生活だけでなく建物全体へと広がりをもって理解していくことにより、学習に深さと幅をもたせる。

さらに応用教育・職業教育の段階では、設計・計画的な立場から住宅を考えるという学習を加える。

本冊子では、特にWHOによる「健康住居環境の基本条件」であげられている4つの考え方を住環境を評価するための指標として用いる。したがって以下の4点を小項目に基づき、各授業で理解することを目標としている。

[参考] WHO 健康住居環境の基本条件

- ・ 安全 (safety) 自然災害 (台風、水害、地震など)、交通事故
- ・ 健康 (health) 日当たり、風通し、自動車・工場の公害、下水道完備
- ・ 能率 (efficiency) 交通の利便性、施設利用 (学校、商店、公園など)
- ・ 快適性 (comfort) 緑の豊かさ、街並み・景観の美しさ

### <初等教育>

住宅内での4つの基本条件を、身近なわかりやすい例で取り上げ、まずは自分の身の回りの現状を理解することから学習を始める。理論的な裏付けは中等教育で行うことが多く、初等教育では住まいの重要性を認識し、身近な例で理解する。また世界にはさまざまな住まい方や住宅があることを、可能であれば写真や資料などで提示したい。それぞれが住んでいる地域にあった住まいとは何かを考える。

### <中等教育>

住宅について、安全、健康、能率、快適性という4つの基本条件について、掘り下げていく。住まいのはたらきを理解していくことと、基本的な知識・用語を含めて理解させる。範囲を住まいだけでなく、地域に広げる必要がある。

### <応用教育>

設計や職業に結びつくよう、専門的な知識を提示しつつ教育することが望ましい。住宅の設計条件としての安全、健康、能率、快適性についてそれぞれデータを示しながら教える。範囲も住宅内部だけでなく建物、地域から都市へと広げる。途中で設計実習を入れると良い。

1 住まいの役割	(1) 気候・風土と住まい (2) 住まいの役割	1 時間扱い
<p><b>学習のねらい</b></p> <p>住まいの役割を考えることにより、住まいの重要性を認識する。住まいをより良くするにはどうしたらよいか、改めて見つめて問題点を発見し（初等）、機能を学習する（中等）。</p> <p>住まいは自然条件や社会状況の違いにより、いろいろな住まいがあること、特に現在住んでいる地域にあった住まいとは何かを考える。</p> <p><b>キーワード：</b>地域、風土、気候、住まい方、建築材料、構造、文化、住まいの役割</p>		
<p><b>内容</b></p> <p>1. 気候・風土と住まい</p> <p>世界各地の伝統的な住まいと住生活は、さまざまな気候や風土に影響を受け、多様である（資料1）。たとえば暑さ、寒さを防ぐ工夫は住まいの外観、材料、間取りなどに表れる。気候に応じた世界の家を想像し、それから絵・写真・文章で紹介する。できるだけいろいろな住まいの資料を提示して、実際に見せることで関心を高める。自分の住まいについて生徒自身が描いてみるのもよい。</p> <p>2. 住まいの役割</p> <p>住居は生活の器である。普段暮らしている住まいについて、改めて見つめ直し、その役割を考える。資料2に示すような役割が住まいと住生活において必要になる。</p> <p>衣食住の分野でみた場合どうしても住分野の改善が遅れやすいが、自分にできる工夫から学習を開始し、特に衛生や安全面の機能をどのようにして確保していくか、家事労働の軽減につながる合理的な間取りについて考えていく。また日本での住宅問題※としては、次のようなものがある。将来を見据え、さらに各国の事情に合わせて、どのような問題があるか、応用教育で考えてみてもよい。</p> <p>※住宅問題：住宅を消費財のように使い短期間で建て壊すこと、住宅の狭さ、高層化や人工環境化、重い住居費負担、長時間労働と長時間通勤</p> <p><b>学習活動（初等）</b></p> <p>(1) 世界の家を紹介する。自然・社会環境により異なるいろいろな住まいの写真、絵を見せる。</p> <p>(2) いろいろな住まいがあることを確認する。</p> <p>(3) それぞれの住まいの特徴を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・寒さを防ぐ工夫のある住まい</li> <li>・草原で移動する生活のための住まい</li> <li>・泥、土、椰子の葉などで作られた住まい</li> <li>・暑さ・湿度をさける工夫のある住まい</li> <li>・台風や強風を防ぐ工夫のある住まい</li> </ul> <p>(4) わたしたちは家の中でどのようなことをしているかを考える。それぞれの部屋で、どんなことをしているか、また住まいのどんな場所に居ることが多いか、などを整理する。</p> <p>住まいのはたらきを確認する。身の回りで工夫できることをさがす。</p>		

1 住まいの役割

(1) 気候・風土と住まい  
(2) 住まいの役割

1 時間扱い

資料1：世界各地の住まい

風土や、その住宅に住む人々の暮らし方によってさまざまな住宅がある。



豪雪地のため急勾配の屋根になっている  
(日本) \*1



遊牧民の住居は簡単に解体・組立てができる  
(モンゴル) \*1



水中に杭を打ち、家を建てている  
(東南アジア)

住居の材料や構造もその風土によって様々である。



スイスの木を使った家 \*2



レンガや石を使った家  
(ヨーロッパ) \*1



中国 ダイ族の住宅 高床の家 \*2



ドイツの住宅 石と煉瓦の家 寒さを防ぐ工夫 \*2



イタリアの住宅 崖を利用した穴居住宅 \*2

1 住まいの役割	(1) 気候・風土と住まい (2) 住まいの役割	1 時間扱い
----------	-----------------------------	--------



アルベロベッロの住宅 石の家 暑さを防ぐ工夫をした家



韓国の住宅 竹や蘆の葉の家 台風・強風から守る家

(イタリア) \*2

\*2

撮影：\*1 石川孝重（日本女子大学） \*2 沖田富美子（日本女子大学）

## 資料2：住まいのはたらき

- ・ 雨風、外敵から生命・生活を守る安全な場（自然環境から生活を守る）
- ・ 休養・健康の維持の場
- ・ 休息・くつろぎの場
- ・ 家庭生活の場（家族が集まって生活する拠点、子育てや老人の保護の場）
- ・ 家事労働の場
- ・ 接客、信仰の場

1日の生活行動の種類：

起床、着替え、洗面、食事、調理、後かたづけ、掃除、洗濯、作業、休息、昼寝、買い物、団らん、読書、ラジオやテレビ、勉強、遊び、入浴、排泄、育児 など

## 学習活動（応用）：

各ライフステージによって住要求が変化し、必要な住まいも異なる。家族人数と必要な部屋、間取りについて考えてみる。子どもが小さい頃には家族が作業をしながらも、常に小さな子どもを見守れる空間が必要であり、子どもがある程度大きくなると勉強などに集中できる空間が必要になる。

経済が豊かになり、人々がよりよい住宅を手に入れることができると、多くの問題も発生する。都市への集中や、家が壊されたりする。見栄えや豪華さにとらわれるのではなく、どんな家が本当によい家か、小さな頃から考えることが大切である。

2 住まいと健康	(1) 日照と採光	1時間扱い
----------	-----------	-------

### 学習のねらい

健康で気持ちよく暮らすための日照条件（日照、日射、採光、照明）について理解する。  
 現在住んでいる住まいの問題点を認識させ、その解決方法について簡単な説明を加える。

**キーワード：**日当たり、日射、採光、照明

### 内容

#### 1. 太陽光の利用

住まいは衛生的で明るいものが望ましい。太陽の光を受けることを「日照」というが、日照の波長によって、紫外線、可視光線、赤外線などに分類される。これらによって照明効果、温熱効果、生理・殺菌効果が得られる。赤外線は加熱・乾燥などの熱作用の働きをする。紫外線は消毒（殺菌）作用、光化学作用があり、紫外線は血液中の血色素、カルシウム、リンなどの増加、骨の発育に必要なビタミンDの形成に不可欠である。カビの生育しやすい高温多湿な気候の場合、夏期の日射による乾燥や殺菌効果は衛生上有効である。

初等教育では身近な例をあげていき、太陽光をどのように利用しているかを考える。また日の光は住宅のどの部分に当たり、内部はどのくらい明るく、時間につれてどのように変化するだろうか。

#### 学習活動（初等・中等）

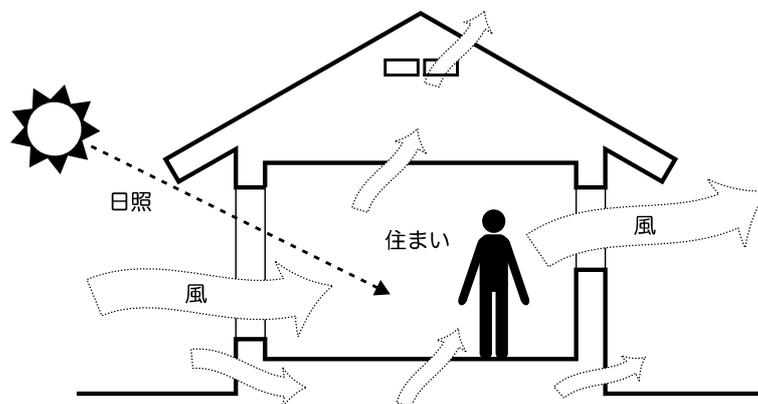
日照条件からみた住まいの条件：

- ・ 明るさ : どちらから日が差し込むか、時間と日照、方位などの関係は
- ・ 暖かさ : 冬、寒い地域では日光を上手に取り込むことが必要
- ・ 衛生的か：じめじめした住宅になっていないか

#### 2. 照明効果（中等）

日照の不足を補い、夜間の活動を可能にするために照明が必要である。空間の明るさは明るいほどよいが、経済性や省エネルギー性を合わせて考えた適度な照明が必要である。特に部屋で行う作業の種類や、空間の使用目的や、年齢などによって必要な明るさは異なる。照明の明るい空間に長時間いることは寝る時間が遅くなることをまねくなど、マイナス効果もある。

**学習活動（中等）：**電球や蛍光灯のW（ワット）数を比べてみる。照明器具による違いを測る。



2 住まいと健康	(2) 通風と換気、音	1 時間扱い
<p><b>学習のねらい</b></p> <p>健康で気持ちよく暮らすための通風条件（風通し、換気、湿気）について理解する。  現在住んでいる住まいの問題点を認識させ、その解決方法について簡単な説明を加える。</p> <p><b>キーワード：</b>風通し、換気、湿気、音、遮音</p>		
<p><b>内容</b></p> <p>風が通って涼しく、防湿性がある住まいは快適である。かびなどの発生にも通風が関係する。遮音・防音は特に都市部において重要で、騒音の激しい環境に暮らすことは心身の健康にも影響を及ぼす。</p> <p><b>学習活動（初等）</b></p> <p>自分の家だけでなく、家族や教室の友人にも確認してみたり、調べる作業を入れると広がりができる。</p> <p>1) 通風条件</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 風の通らない部屋があるかどうか、その部屋は暑いか寒いかについて考える</li> </ul> <p>2) 音響条件</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 不快な体験を想起させることにより、騒音を身近な問題として受け止めさせる</li> <li>・ 騒音と感じる音にはどんなものがあるかについてまとめる</li> <li>・ 騒音を少なくする方法を考える</li> <li>・ 生活時間帯を考えた音の出し方や周囲に迷惑をかけない配慮の大切さにも気づかせる</li> </ul> <p><b>学習活動（中等）</b></p> <p>現代の住居では、燃焼に伴う一酸化炭素やホルムアルデヒドなどの有害物質が室内環境を汚す場合がある。換気と室内での有害物質の発生原因について解説する。また住む上で、換気を十分に行うことが大切であることに気づかせる。</p> <p>音については、密集した都市部で生活音が騒音になるトラブルが多い。騒音に関するその国の基準などがあればそれを紹介する。</p> <p><b>解説</b></p> <p>日本では風通しをよくし、高温多湿な気候を次のような住まいの工夫をすることで対応してきた。各国においても、それぞれの気候条件に応じた工夫がある。たとえば、高床や深いひさしなどがあげられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 天井を高くして縁側を作る、ひさしを作って直射日光を室内に入れない</li> <li>・ 1つの部屋（和室）が開放的で大きく開けられる、どの方角からも風が通るようにする</li> <li>・ 家の周りに植物を多く植えて温度を下げる、風をよけるための林を作る</li> <li>・</li> </ul> <p>また都市の住まいでは、風の通りの悪い住宅が多く、次のような工夫をしてみることが有効である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 窓をふさいでいる家具を動かす</li> <li>・ バルコニーの荷物を移動して、室内に風が入るようにする</li> <li>・ 窓を2カ所開けて、風の通り抜けをよくする</li> <li>・ 換気を十分に行う 換気の方法としては、自然換気と機械による換気の2種類がある</li> </ul>		

3 住まいの安全	(1) 災害と住まい	1 時間扱い
<p><b>学習のねらい</b></p> <p>その国で頻繁に発生する自然災害に強い住宅のつくり方を理解する。特に地震や台風で壊れない家づくりを進める方策を考える基礎学習として、災害現象を理解する。</p> <p><b>キーワード：</b>自然災害、住宅の安全性、台風、地震、家庭内事故、事故防止</p>		
<p><b>内容</b></p> <p>1. 自然災害の理解</p> <p>災害による被害の大きさには、災害現象の大きさと社会の脆弱性の2つの要因が関係する。減災をはかることが大切であることを学習させる。どのような災害が発生しやすいか、またどのような場所で発生しやすいか、その地理的条件を整理し、災害の起こりやすさや典型的な被害について理解を深める。社会の脆弱性については、その地域のライフライン（電気・ガス・水道など）がどのようになっているか、建物が安全かどうかなどがかわってくる。</p> <p>また火災は身近なリスクである。火災を起こさないための工夫や、生活上での注意点を学べるとよい。日本は木造が主であるため火災が昔から恐れられてきた。家（特に屋根や外壁）を燃えにくくすること、いったん火災が発生しても燃え広がらせない工夫が密集した都市で求められ、対策が行われてきた。日本と対比しながら、こうした工夫を学習するとよい。</p> <p>初等教育、中等教育ともに、災害の原因とその解決策を詳細に学ぶことはむずかしいが、避難のしかたを学習したり、日本での災害防止策を紹介することで、身近に感じてもらうことは有効である。特に小学校や中学校では避難訓練などの実施と合わせて検討するとよい。</p> <p><b>学習活動例（初等）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地震、台風、積雪、土砂崩れ、津波などはどのような現象か、どんな被害が出るかを考える。</li> <li>・どのような場所が災害を受けやすいかを考える。 例：谷や湿地、密集した町</li> <li>・その国でどのような災害が過去にあったかについて調べ、グループ発表する。</li> <li>・家族や知り合いの年配者に、どんな対策をとっているか、どんなことが大切かなどを聞くと良い。</li> </ul> <p><b>参考：</b>小学生の避難訓練で教えられる合い言葉</p> <p>「おかしも」：「<u>お</u>さない」「<u>か</u>けない」「<u>し</u>ゃべらない」「<u>も</u>どらない」</p> <p>2. 災害に強い住宅づくり（中等・応用）</p> <p>災害に強い住宅をつくるためには、次のような工夫が必要である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・壊れにくい、あるいは燃えにくい材料の使用</li> <li>・適切な設計と施工</li> <li>・それぞれの地域で起こりやすい災害に対応した設計（例：台風の多い地域では屋根や床高に配慮する）</li> </ul>		

3 住まいの安全	(2) 家庭内事故と安全対策	1時間扱い
----------	----------------	-------

**学習のねらい**

家の中でも危険であることを認識する。

家庭内で起きる事故の種類とその原因を知り、安全な住まい方を考える。

**キーワード：**転倒・転落、溺死、防犯、火災、幼児、高齢者

**内容**

家庭内でも危険があり、事故が起こることがある。

その原因を調べ、安全で快適な住まい方を考える。

**学習活動（初等）**

- ① 資料を通して、家の中で起こっている事故について、その種類と場所について知る
- ② 自分の家を点検し、危なそうなところを書き出す
- ③ 自分の家で、起こった事故を調べる
- ④ 事故の起こった原因をまとめる
- ⑤ 安全に住むための住まい方の工夫を考える

**資料：**住居内の事故の種類と発生場所

<u>場 所</u>	<u>種 類</u>
階段	転落
居室	転倒・つまづき（床の段差、床のすべり） ぶつかり・こすり（家具の安定性、材料、形） 家具の転倒 照明器具・備品の落下 ガラスの破損
浴室・洗濯場	転倒 おぼれ（床のすべり、浴槽のふた、洗濯機）
台所	中毒（火気、熱気） 感電・やけど 火事 切り傷（ほうちょう、はさみ）
廊下	ぶつかり（各室のドア）
バルコニー	墜落



4 住まいと能率	(1) 生活の近代化と家事労働空間	1 時間扱い
----------	-------------------	--------

### 学習のねらい

近代的な生活を営むための間取りの特徴を理解する。

家事労働空間を合理的で、機能的なものにするために、住宅内の適切な位置に配置することを学ぶ。

**キーワード：**間取り、接客、中廊下、食寝分離、家事労働、居住空間

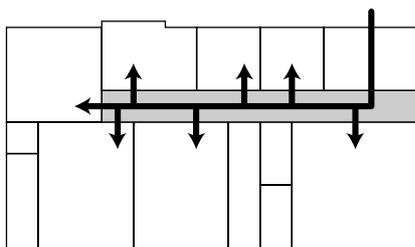
### 内容

近代的な生活を営むためには、日本では次のような住宅平面構成（間取り）の変化があった。

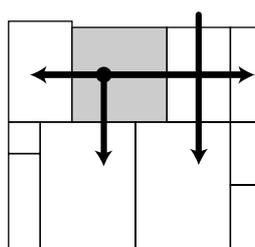
- ① 接客本位型：武家住宅の流れをくんだもので、ハレ（晴＝おもて）とケ（褻＝うら）の生活に分かれる。床の間を接客空間として重視し、主人が客をもてなした。家族の私室よりも接客に重点が置かれ、プライバシーがほとんどなかった。
- ② 中廊下型：接客本位型の住宅における問題点を解決するために生まれた様式で、中廊下を中心に部屋の独立性を高め、家族と使用人とのプライバシーを確保したプランである。
- ③ 食寝分離型：いわゆる食べる部屋と寝る部屋を分離することである。さらに台所と家族の普段の食堂を一室化したDK（ダイニングキッチン）も登場しているが、これは狭い住宅を合理的に配置するために、我が国の公団住宅で採用され、当時の主婦のあこがれの的になった。
- ④ 現代：現代の住宅では、部屋の洋風化が進むとともに、我が国独特の住様式である和室は減っている。床座の住生活もいす座に変わっている。また公私を分離する下図のような平面も現れた。

### 学習活動（初等・中等）

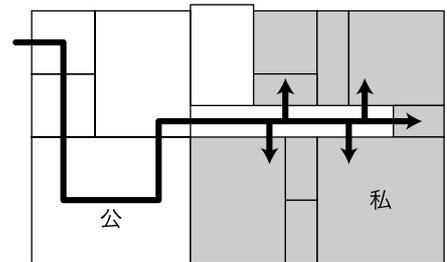
- ・（初等・中等）自分の家の間取りを描いて、各部屋がどのようにつながっているかを理解する
- ・（中等）家事労働にはどのような間取りが適切か、間取りのバリエーションを考えてみる



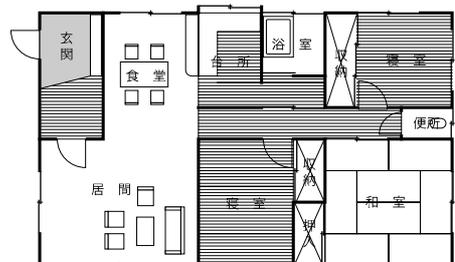
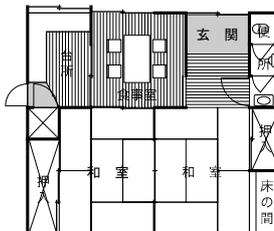
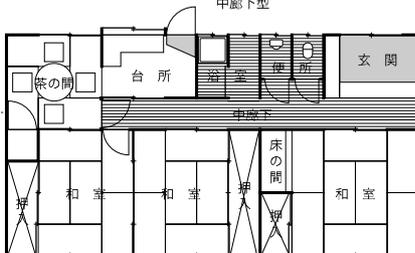
中廊下型



食寝分離型



公私分離型



4 住まいと能率	(2) 住空間と動線	1時間扱い
----------	------------	-------

**学習のねらい**

生活・住空間を使いやすく改善する方法を見つける。

**キーワード：**住空間計画、動線、スペース、消費エネルギー、家事労働空間

**内容**

住空間の使い勝手は動線の取り方などによって決まる。家の中でどのように動いて生活しているかを把握し、無駄な動き（エネルギーの消耗につながる）、無駄な時間をできるだけ少なくし、健康的に、能率的に生活することの大切さを知る。

**学習活動（初等・中等）**

- ① 台所を中心に部屋の使われ方を、1日観察する  
どのような行為を、どこで（場所）、どのぐらい（時間）しているかを調べる
- ② おこなわれている行為の種類をまとめる
- ③ それぞれの行為の時間をまとめる
- ④ どの場所が使われているかをまとめる
- ⑤ 無駄な動きをしていると考えられる場所とその理由を見いだす
- ⑥ その場所をどのように変えたらよいかを考える

初等教育では、①から④の観察・整理を中心に学習し、中等教育では⑤および⑥に力を入れて問題点の発見と解決策の模索を行う。

**解説：**動線とは、住宅内で人間が動く軌跡のことを指す。無駄な動線ができればエネルギーの消耗につながるため、動線を短く合理的にすることが設計で求められる。動線については初等教育ではなく、中等教育で扱うのが適切である。

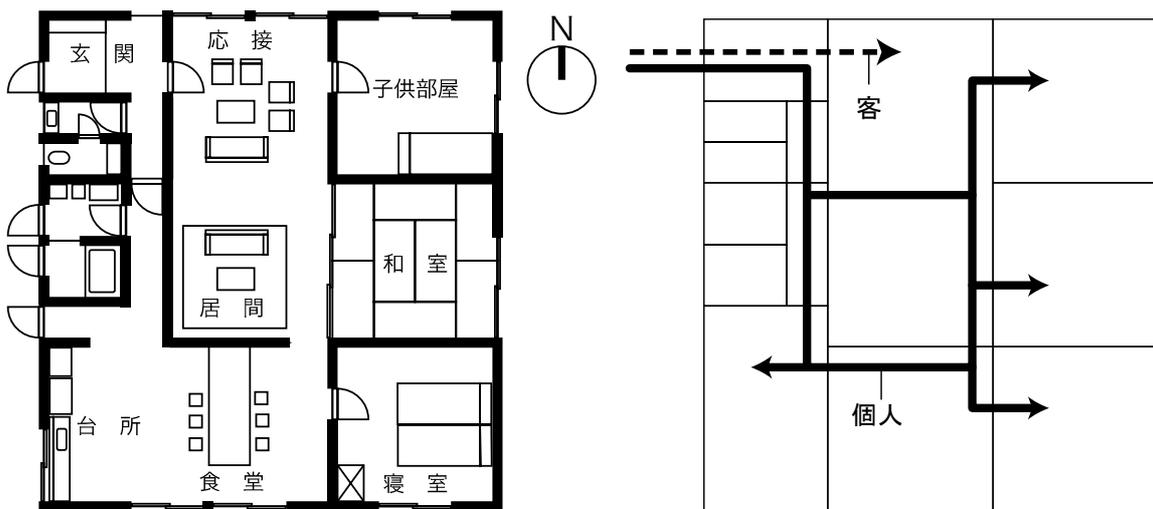


図 住宅の間取り例と動線

5 住まいの快適性	(1) 動作に必要な空間の広さと間取り	1時間扱い
-----------	---------------------	-------

**学習のねらい**

人間の動作がスムーズに行われるためには、どのような寸法計画をすればよいかについて理解する。  
健全な家庭生活を営むためには、どのくらいの住宅の広さがよいかについて理解する。

**キーワード：**人間、動作、スペース、寸法、設計

**内容**

人間の動作がスムーズに行えるように、住宅の設計を行う必要がある。快適な住宅を設計するためには、その中で暮らす人間にとって最低限必要な広さを確保することが大切である。

1. 住宅全体の広さ

人体寸法と設計寸や家具の寸法計画の関係についても学習する必要があり、人間にとって使いやすく、機能的な住宅をつくることが望ましい。この項目は初等教育ではなく、中等教育を中心として学習することが適切である。

**学習活動（中等）のためのワークシート**

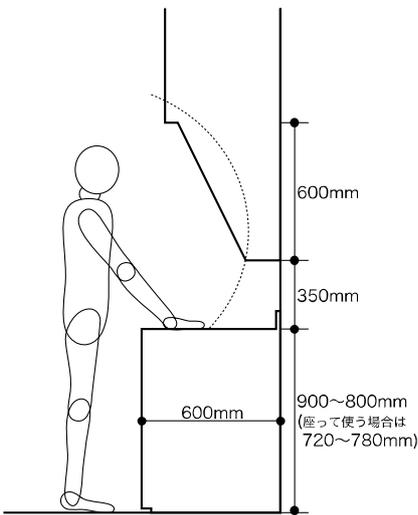
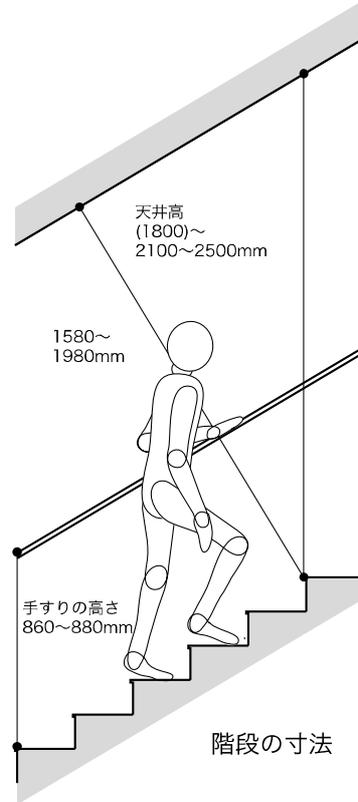
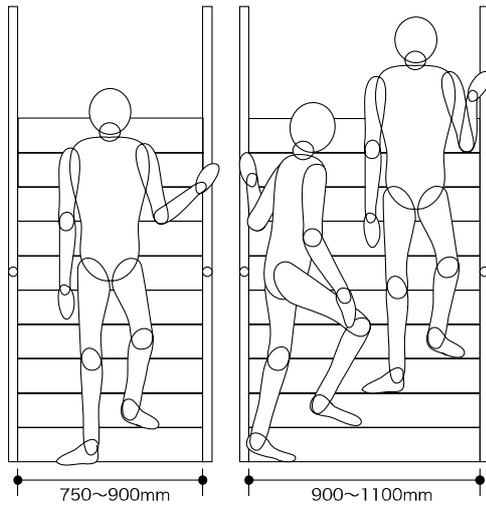
次のような行為や作業を行うにはどのくらいの広さがよいか、表を作ってみる。答えを正確に知るといよりはむしろ、だいたいの寸法を把握できることが目的。人間の体の寸法と道具や空間の関係を知る。また部屋の大きさを測る単位は何かを理解する。たとえば、アメリカは平方 feet、日本は畳、 $m^2$ を使う。（1畳=1.62 $m^2$ ）

各部屋の名前・用途	広さ（ $m^2$ など）
おとなが寝る部屋	
おとな（おじいさん、おばあさん）の部屋	
おとな（                      ）が寝る部屋	
子どもが寝る部屋	
バスルーム	
トイレ	
洗面所	
食事を作る部屋	
食事をする部屋	
団らんする部屋	
その他（                      ）	

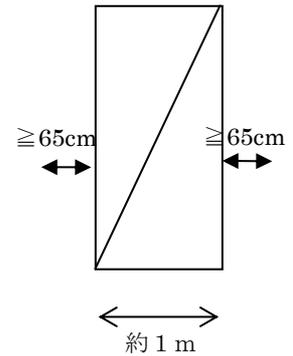
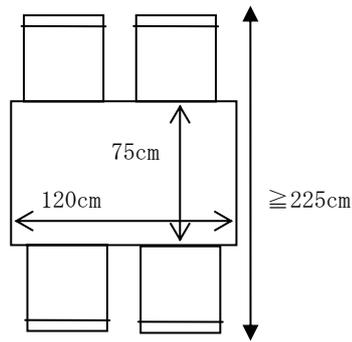
## 2. 住宅各部の寸法

### 学習活動（中等）

実際に各部の寸法を測り、どのような寸法が使いやすいか調べて、図面や絵にする（たとえば階段1段ごとの寸法と勾配）。そのほか、車いすの障害者のための寸法を、資料編（住居1）に掲載した。



調理台の寸法



調理台の寸法

1人の所要幅は60cmが最小  
あまりあきすぎても使いにくい  
食卓の高さに注意が必要  
食事のための空間（例：4人用）

周囲にはベッド・メーキングの空間が必要  
ベッドと周囲の空き

5 住まいの快適性	(2) 住まいの快適性	1時間扱い
-----------	-------------	-------

**学習のねらい**

気持ちよく、快適に住むためには、どのような問題点があるかを認識する。  
 その解決方法として、きれいに住むための工夫を学ぶ。  
 整理・整頓、手入れ・清掃の必要性、重要性を認識する。

**キーワード：**スペース、整理・整頓、手入れ、清掃

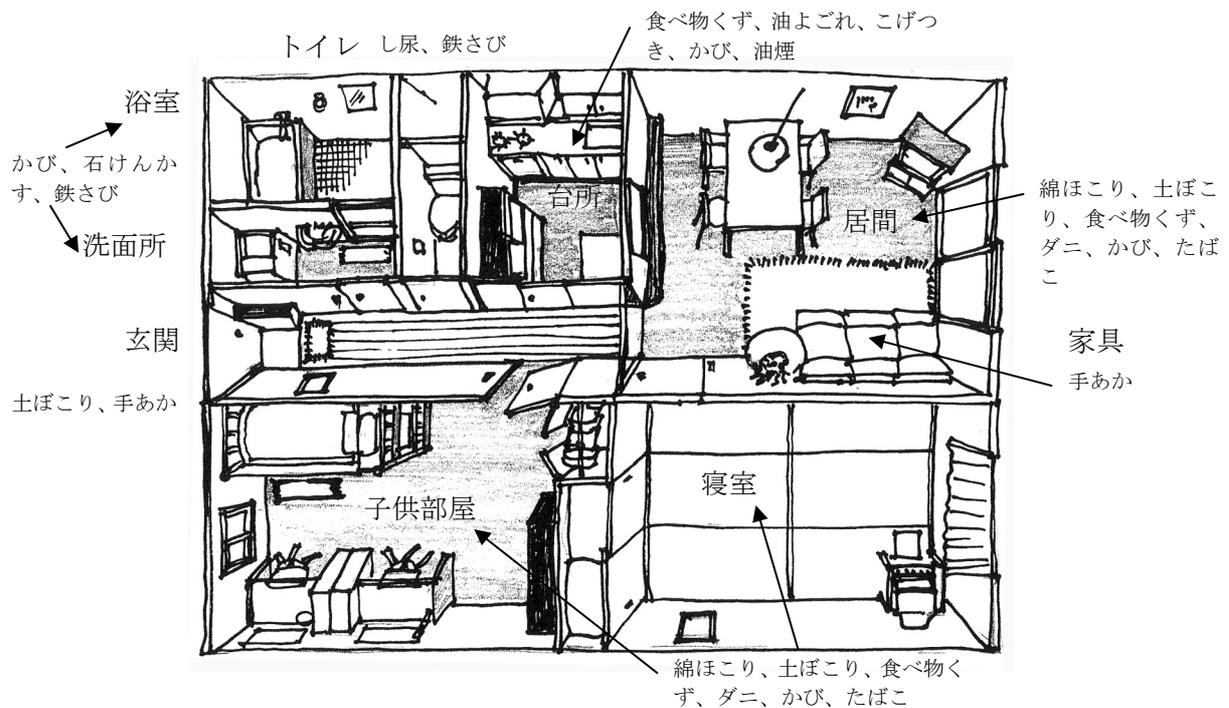
**内容**

気持ちよく、快適に住むためには、整理・整頓が重要である。そのための問題点の発見を初等教育で行い、中等教育では整理・整頓から一歩進んで、薬品なども使用した具体的な清掃の方法を教えたり、応用としてインテリアデザインまでの展開が可能である。

よごれた乱雑な場所で生活することは、子供たちの心を投げやりで荒れたものにする。子供たちの心が荒れ始めると、まず教室のよごれが目立ち始め、公共物への落書きや器物破壊に及んでいく。ごみ問題とも関連して学習させ、掃除の重要性を特に初等教育で認識させることが望ましい。

**資料：**住まいのよごれ

- ・トイレ：し尿、鉄さび
- ・居室： 綿ほこり、土ぼこり、食べ物くず、ダニ、かび、たばこ
- ・浴室： かび、石けんかす、鉄さび
- ・台所： 食べ物くず、油よごれ、こげつき、かび、油煙
- ・その他： ドア、スイッチ、家具、手あか



6 住まいと地域	(1) 住まいからまち・むらを見る	1時間扱い
<p><b>学習のねらい</b></p> <p>自分の住んでいる地域を歩き回り、観察し、自分の目で確かめながら、住まいの環境の課題や魅力を探り、生活環境の向上について考える。</p> <p>自分の家を中心に、日常生活に必要な施設を調べる。</p> <p><b>キーワード：</b>住環境、地域、地域の問題、地域施設</p>		
<p><b>内容</b></p> <p>身近な生活の場を対象に、みたり、聞いたり、調べたりすることによって、生活環境に対する洞察力を養う。</p> <p><b>学習活動（初等・中等）</b></p> <p>○まちやむらの地域をみつめる</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 自分の住んでいる地域（まち・むら）の資料を集める。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・地図</li> <li>・その他資料（土地利用、施設配置など）</li> </ul> </li> <li>2) まち・むらを観察・探索する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちで見て回る</li> <li>・地域の人に話を聞く</li> </ul> </li> <li>3) まちやむらのよい点を見つけ出す。それを生かし、維持する方法を考える。</li> <li>4) まちやむらの問題点を探り出す。改善策を考える。</li> <li>5) まちやむらにある生活利便施設を地図に記す。</li> </ol> <p>○住環境を調べる・・・地域の施設</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 自分の家を中心に、日常生活に必要な施設を調べる。</li> <li>2) 地図上に施設を書き込む。</li> </ol>		

6 住まいと地域	(2) 地域を構成する施設	1 時間扱い
----------	---------------	--------

**内容**

**解説**

子ども、大人、高齢者など、様々な世代によって、必要とする施設も違ってくると思われるので、地域に住む多様な人々の身になって考えてみるのが大切である。

**資料** 地域施設の種類

学校施設：幼稚園、小学校、中学校      社会福祉施設：保育所、児童館、高齢者福祉センター  
 社会教育施設：集会所、公民館、図書館      医療保健施設：診療所、病院、保健所  
 行政管理施設：市区町村庁舎、郵便局      交通機関：バス停、地下鉄、鉄道駅  
 購買施設：商店、マーケット、ショッピングセンター  
 レクリエーション施設：児童遊園・公園